

「日本はもっとグローバル化すべきである」 是か非か

2017/1/21
山本 利昭

ディベートとは

◆ 定義

- あるテーマに関して、賛否両方に分かれて、議論を戦わせること。

◆ 感覚的な受け止められ方

- Discuss(協議) ⇔ Argue(口論・主張・説得) ⇔ Debate(討論)
- 討論技術の育成という目的で、「教育的ディベート」が広く行われている
- 今日は、教育的ディベートを発展させた「競技ディベート」を実験してみたい。

◆ テーマの重要性

- 議論がすれ違ったり、賛否の有利不利が少ないテーマや、空理空論、総論賛成各論反対になり難いテーマを選ぶ必要がある。

◆ 本日のテーマ

日本はもっとグローバル化すべきである

今回のディベートの手順

(全国高校生英語ディベート大会)

- ◆ 肯定/否定の再度決定は、直前にくじで決定
- ◆ 手順に沿って、交互に発言
- ◆ 各発表は制限時間があり、その中で自由に発言
- ◆ 判定は第3者の審判が、各論点の有効性を評価して決定

肯定側

① 立論

④ 質疑

⑥ 反論1(攻撃)

⑦ 反論2(防御)

⑨ 総括

否定側

② 質疑

③ 立論

⑤ 反論1(攻撃)

⑧ 反論2(防御)

⑩ 総括

ディベートの要点

◆ 立論

- 主張 テーマを定義し、テーマの実現策を具体的に主張することが重要
- 根拠 問題解決の因果関係と、期待できる効果(利害得失)を論理的に述べる
- 証拠 根拠を証明できる証拠を示す。

◆ 質疑

- 相手の立論の不明点を質問するもので、反論の場ではない
- 質問者が時間管理をするので、相手の答えが長くなると制止できる

◆ 反論

- 攻撃 相手の立論に対して、その不備、問題点等を攻撃する
- 防御 相手の攻撃に対して再反論をする
- その他 自分の立論で言わなかった新たな主張を述べるのは禁止

◆ 総括

- 反論の議論を整理・評価して、自分達の論点の方が有効であることを審判に説得する

「グローバル化」の表現レベル

- ◆ 言葉の定義を明確にしないと、反対者は全て「極右主義」、「保護主義」等々のレッテル貼りで終わり、議論できる場が持てなくなる。

コスモポリタン

◆ コスモポリタン

- 何処へ行っても変わらない人権等の理念を共有し一つの国にとらわれない市民とした考え

グローバル

◆ グローバル

- 世界の中の一部として自国を見る見方

インターナショナル

◆ インターナショナル

- 自国を中心に世界との関係を捉える見方

ナショナリスト

◆ ナショナリスト

- 自国を中心に置いて、他国を自国の文化に同化させようとする考え方

鎖国

◆ 帝国主義

- 帝国主義も理念としては世界統一を目指す、手法が武力による征服を中心に置いた考え方

グローバル化の視点と段階

◆ 「グローバル化」を、人・物・金の視点で見るとどうなるか。

◆ その他の視点

- 人種・宗教、不動産所有、外国人教育、文化等々

人	物	金	企業
国籍自由化	?	統一通貨	世界企業
移住自由化	関税撤廃	?	多国籍企業
移動自由化	関税規制	金融管理	現地生産
ビザ規制	輸出入規制	?	貿易
入出国禁止	国内自給自足	通貨交換なし	外資禁止

「日本のグローバル化」の視点

◆ 現在話題になっている「反グローバル化」は日本でも起こるか

◆ イギリスのEU離脱問題

- きっかけはシリア他からの大量難民の問題
- 産業の空洞化、治安の悪化に対する反動
- EU共同体における各国の主権の自由度と弱小国の経済・財政危機

◆ アメリカのトランプ大統領の政策

- 産業の空洞化
- 多民族国家の理念と不法移民流入の現実とのかい離
- 世界の中心としての覇権を握ってきたアメリカの方向転換

◆ 日本の状況

- 移民は現状殆どいない
- 産業の空洞化
- アジアからの難民流入の可能性は低い、民族的友好国は少ない

日本の現状とグローバル化の関係

◆ 日本の課題

- 少子高齢化社会における労働者確保としての移民受入
- 移民受け入れによる治安悪化
- 国家資本主義的な中国による日本企業・不動産の買収
- 中国/韓国/北朝鮮/ロシア等の近隣諸国との政治的対立と同盟関係

◆ 政策・戦略的課題

- 日本の経済復興策はどのようなシナリオか
- 強い者が勝つという世界の論理の中で、日本はどのような理念・政策を出すのか